第６回わかやま環境大賞表彰式

１　表彰制度の目的

環境の保全に関する実践活動が他の模範となる個人又は団体を表彰し、その活動事例を広く県民に紹介することにより、県民の環境保全に関する自主的な取り組みを促進することを目的としています。

２　表彰式の日時及び場所

（１）日　時　平成１９年６月４日（月）　　１３時２０分～１４時００分
（２）場　所　和歌山県民文化会館　小ホール
（３）その他　表彰式終了後、環境月間記念講演会を開催
　　１４時１０分～１５時４０分
　　講師：亀崎　直樹　氏
　　（ＮＰＯ法人日本ウミガメ協議会会長）
　　演題：「和歌山の人にぜひ知って欲しい、ウミガメのことを」

３　受賞者（活動内容は以下を参照してください。）

３６件の応募の中から「わかやま環境賞選考委員会」による選考を経て知事が決定

（１）わかやま環境大賞
　　和歌山県立粉河高等学校

（２）わかやま環境賞
　　尾鷲　　梢
　　西和佐生活学校
　　里山を愛する会
　　白浜町ごみ説法者
　　吉田　八重子
　　田辺市立三栖小学校

（３）特別賞
　　濵口　友三郎
　　㈱太陽産商　和歌山支店和歌山営業統括本部

【 わかやま環境賞選考委員会名簿 】

役　　職	氏　　名	備　　考
和歌山大学准教授	宮　川　智　子	会　長
和歌山県生活学校連絡協議会長	宇　尾　たみ子	
和歌山県立紀伊コスモス養護学校長	宮　本　孝　子	
NPO和歌山有機認証協会事務局長	重　栖　　隆	
和歌山県環境生活部長	楠　本　　隆	

「 わかやま環境大賞 」候補者の選考について

平成１９年の「わかやま環境大賞」に県内各地で環境保全活動をされている個人や団体、事業者、学校といった様々な分野の方々から応募がありました。

応募のあった活動については、美化活動、教育・啓発活動、環境調査といった多様な内容のものでした。

これらの活動は、どれも環境保全上有益なものと認められるものですが、本表彰制度の目的が、「環境の保全に関する実践活動が他の模範となる個人又は団体を表彰し、その活動事例を広く県民に紹介することにより、県民の環境保全に関する自主的な取り組みを促進すること」から、①活動が多様な立場の人々の参加を得た広がりを持つものであること、②活動が継続的なものであること、③活動に特色があること、④環境保全への効果が現れていることを基準に判断し、次のとおり選定しました。

この表彰を契機として、環境保全活動の環が、県民の皆様方に広がっていくことを願っています。

1　わかやま環境大賞	**和歌山県立粉河高等学校**
2　わかやま環境賞	**尾鷲　　梢**
	西和佐生活学校
	里山を愛する会
	白浜町ごみ説法者
	吉田　八重子
	田辺市立三栖小学校
3　特　別　賞	**濵口　友三郎**
	㈱太陽産商 和歌山支店和歌山営業統括本部

わかやま環境大賞

（１）受賞者

和歌山県立粉河高等学校

（２）評　価

異分野の人たちと連携し、毎年違った取組みがあり、「紀の川の水環境」という切り口に活動の特色がある。今後もさらに継続していく期待感がある。

（３）受賞者の概要

ア　代表者

校長　實　宝　正　芳

イ　活動事例の名称

KOKO塾「まなびの郷」
ワーキンググループ『環境を生かす・環境と生きる』

ウ　活動の契機

平成13年度和歌山大学生涯学習センターと連携構想が立ち上がり、14年度に地域の公開講座を試行に市民参加型のワーキンググループとして活動を開始。

エ　活動内容

「紀の川の水環境」に視点をおいた大学、一般市民参加による異分野異業種、異年齢の交流による学びの追求
有機農業調査、地域でのフィールドワーク、紀の川源流域・水質調査干潟環境調査、無農薬野菜づくりなど

わかやま環境賞

（１）受賞者

尾　鷲　　梢

（２）評　価

平成14年から活動に携わる時間は長く、活動を通じて広がる地域の連帯や環境保全の効果が表れている

（３）受賞者の概要

ア　代表者

尾　鷲　　梢

イ　活動事例の名称

よろこびの輪

ウ　活動の契機

平成14年度県婦人団体連絡協議会の活動テーマ「環境問題について身近なところから考え取り組む」があり、婦人会として学習・活動するなかで、地球環境への切実な想いをアピールするため、実践を試みたことから

エ　活動内容

平成14年から活動。
週２回生ゴミを収集し手作業で堆肥化。約60世帯の参加で１回の生ゴミ収集量は100kg前後。できた堆肥を花作りや家庭菜園で使用し、喜びあいながらゴミを無くし、笑顔を増やす「よろこびの輪」の活動を地域に定着させている

わかやま環境賞

（１）受賞者

西和佐生活学校

（２）評　価

昭和54年から地域が一体となって地域美化の取組みが継続されている

（３）受賞者の概要

ア　代表者

平　井　裕　子

イ　活動事例の名称

古紙回収で高まる環境意識

ウ　活動の契機

昭和54年、新聞・雑誌等の古紙をゴミとして燃やすのでなく、再利用しようと業者、行政、生活学校のメンバーで対話集会を開いたことから

エ　活動内容

現在は２ヶ月に一度、日時と地域のステーションを決め回収を行う。28年間の回収を続け地域住民に協力の輪が広がり、環境問題の取組みに意識の高い地域となった。

わかやま環境賞

（１）受賞者

里山を愛する会

（２）評　価

平成10年から毎月活動が継続され、環境問題の意識の高さや活動に特色がある。
また、学生との交流など活動の広がりを得ている

（３）受賞者の概要

ア　代表者

玉　置　貞　昭

イ　活動事例の名称

里山の森を放置竹林の拡大から守り次代に残そう

ウ　活動の契機

10年前にある生物学者から「里山の竹林をこのまま放置していたら日本の山がなくなるのに30年もかからないでしょう」と聞いたことから

エ　活動内容

平成10年から毎月第２日曜日、放置竹林の伐採を始める
竹を使ったイベント（竹炭づくり、竹の子掘り等）等の情報発信
和高専の学生との交流（研修交流、イベント参加）
行政（国交省、県、みなべ町）との協働（広葉樹の植樹、シンポジウムの参加）、他の自然保護団体との交流

わかやま環境賞

（１）受賞者

白浜町ごみ説法者

（２）評　価

環境意識の高い白浜町で特色のある活動を継続している。地域の環境保全に対する実践や意識を高めた。

（３）受賞者の概要

ア　代表者

宇　尾　たみ子

イ　活動事例の名称

ごみ減量リサイクル推進のための町民啓発活動の実施等

ウ　活動の契機

平成3年、ごみ処理問題に関心のあるボランティア町民を町が「ごみ説法者」として登録したことから

エ　活動内容

ごみの減量、リサイクル等について学校へ出前講座
毎月、資源ごみステーションでの分別指導
チェーンストア等の店頭でごみリサイクルの啓発
県、関係団体との連携・協力

わかやま環境賞

（１）受賞者

吉田　八重子

（２）評　価

長年、継続して取り組んできた活動が大きな効果を得ている。活動に特色があり多様な広がりを得ている。

（３）受賞者の概要

ア　代表者

吉　田　八重子

イ　活動事例の名称

ホタルの飛び交う村づくりを目指して

ウ　活動の契機

吉原地区の川・池・水田用水路の水質が汚濁、悪化したこと。農業集落排水推進協議会推進委員として水の大切さ、美しい地域を次世代へ受け継がせてゆく使命を自覚したことから

エ　活動内容

家庭排水処理を適正に行う啓発活動として各地域で講演
処理施設に負荷のかからないグッズの考案
自宅を開放して多くの方々に家庭での様々な取組みを展示

わかやま環境賞

（１）受賞者

田辺市立三栖小学校

（２）評　価

中学・高校と連携し水質調査・ホタルの調査を通じて環境問題に取り組む活動や、長年の地域の美化活動は今後も引き継がれる期待がある。

（３）受賞者の概要

ア　代表者

校長　湯　川　啓　司

イ　活動事例の名称

地域学習から環境学習へ

『もっと知りたい、見つけたい、私たちの川（三栖川）』

『三栖を美しくする運動』

ウ　活動の契機

ＭＴＰ（マスターティーチャープログラム）研究協力校並びにシティサクセスファンド教育実践校となり、小中高大学合同で水質調査プロジェクトに携わったことから

エ　活動内容

小中高等学校と合同で水質調査を実施

専門家を招きホタルの生態調査

永年にわたり継続して行っている地域住民との清掃活動

特　別　賞

（１）受賞者

濵口　友三郎

（２）評　価

30数年にわたり海岸の清掃に携われた活動は地域美化に大いに貢献した

（３）受賞者の概要

ア　代表者

濵　口　友三郎

イ　活動事例の名称

三壺崎海岸の美化

ウ　活動の契機

昭和46年第26回国民体育大会開催にあたり、他府県の人が訪れた時に悪い印象を与えないよう活動を開始

エ　活動内容

昭和46年から一人で海岸清掃を継続

平成13年からはアルミ缶の回収もはじめ授産所の援護も

特　別　賞

（１）受賞者

㈱太陽産商和歌山支店　和歌山営業統括本部

（２）評　価

本来の業以外の分野で、異業種や農家とネットワークをつくり環境意識の向上に貢献している

（３）受賞者の概要

ア　代表者

代表取締役　金田　実

イ　活動事例の名称

循環型社会の構築を目指す環境リサイクル集団
ゼロ・エミッションへの挑戦

ウ　活動の契機

「多量に排出されるごみの処理をどうするのか」という問題に、ごみも大切な資源であることを啓発し、ゼロ・エミッションの実現を目指すため

エ　活動内容

食料品店やＮＰＯ団体・農家とネットワークを構築し、食品の残渣物や生ゴミが食品循環資源として有機性肥料などに使用されることを啓発
農家や小学生を対象に施設見学を積極的に受入れ、環境意識の向上推進に取り組んでいる